

# 時の始まりから終わりまで

2018年7月1日

読者の皆さん

グループルニマーの月、おめでとうございます。

月が地球の周りを回っているのは何と素晴らしいことかと考えるため、立ち止まったことはありませんか。この惑星と月をつなぐ目に見えるものはなく、互いをつなぐ目に見える糸やワイヤもありません。しかし、自然、この宇宙の法則、重力の強さは、目に見えずとも強いつながりがあることを説明しています。このつながりの影響力は計り知れません。月によって海はうねり、また静まります。

この例えの何がそれほど人を魅了する——そして啓蒙する——のかは、たとえ潮の満ち引き以外の壮大な告知や合図がなくても、月と地球のつながりは常にあるということです。行っては戻り、与えては受け取り、相互に承認し影響し合うことは、地球上の生き物がそれに気づいているか否かにかかわらず、常に起きています。そこには、天体間のある種の合意、自然秩序への喜びに満ちた同意があります。

もちろん、人間としての私たちは、私たち自身の差し迫ったつながりの必要性を持っています。つながりを求め、私たちにとって最も真実であり生来の特別な絆に根を下ろそうとするのは、まさに人としての性質です。私たちをこの方向に常に引き寄せているのは引力ではないかもしれませんが、そこには確かに推進力があり、私たちの外的環境を決定づける力よりもさらに有力で、さらに強力なものであろうと私は推測しています。問題は、私たちが自分の心のこの命令、この指示を心に留めるかです。

ある話を聞いてください。今年の夏の初め、グルマーイがヨウム(アフリカ灰色インコ)と一緒にアヌグラハの下のロビーに立っていました。このヨウムは 1991 年にグルマーイの所にやって来て、その時はまだ生後 5 カ月で羽もほとんど生えていませんでした。彼は長年シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムに住んでいましたが、今はフロリダで世話をしてくれる人と一緒に暮らしています。そして年に1度、アーシュラムを訪れます。

ヨウムがアーシュラムを訪問しているこの機会に、グルマーイは下のロビーでアフリカ灰色インコだけが奏でる美しい音——軽快な口笛、音程を急降下させる鳴き声——に耳を傾けていました。時々、セーヴァイトがロビーに入って来てはグルマーイにあいさつをし、ヨウムを見ようと前に進み出ました。そのやり取りの流れはとても甘美で和やかでした。

ある時点で、グルマーイは上のロビーに続く階段の方を見ました。グルマーイがしばらく会っていなかった訪問セーヴァイトが、そちらから近づいてきました。素晴らしいタイミングでした。このセーヴァイトはグルマーイのダルシャンのために前に進み出て、もちろん鳥も見ることができたのですから。グルマーイがそのセーヴァイトにちょうど声を掛けようとした時に、セーヴァイトは突然階段を駆け降りてドアに向かい、よく見ることさえなく外に飛び出していきました。

『立ち止まり、つながる』という行動が取られませんでした」と、グルマーイは後にこの出来事について私に話しました。「立ち止まり、つながる機会はあるのです」

「立ち止まり、つながる」というこの教えは、今年のグルマーイのメッセージの講話からのものです。それは 2018 年に取り組むようにグルマーイが私たちをいざなった決意に不可欠です。それは、いつでもどこでも自分自身のサツァングを創る方法です。私たちは「立ち止まり」ます。頭の中のおしゃべり、頭の中で繰り返すのが好きな物語、私たちを混乱させ、ゆがめ、私たちが好む以上の注目を要求する感情、それらから離れるために少し時間を取り、そして今の

瞬間にとどまる努力をします。私たちは「つながり」ます。私たちの目の前と内側にあるもの、私たちの歩む道に今にも流れ込む準備ができている恩恵の広大な貯水池とつながります。

「立ち止まり、つながる」という教えは、このグループルニマーの月にさらに修行し、熟考するのにふさわしいものです。つながりは、まさにこの祝日が存在するようになることを促進したものです。それはグルと弟子のつながりであり、探究者と大いなる真実の知識を体現し授ける者とのつながりです。このつながりへの感謝から、偉大な聖人ヴェーダ・ヴァーサの弟子たちはグルを称賛し、崇拝し、敬意をささげたいと望みました。そこでこの日——一年のうちで最も完璧で輝かしいアーシャーダの月の満月の日——が、まさにその目的にささげられる日となりました。  
(グループルニマーの起源についての物語の全体はこちらで読むことができます)

グループルニマーの日、そしてそれに向かうまでの日々、グルとあなたの関係の本質をぜひ探究してください。そうするに当たって、その探究には継続的な取り組みが必要だと理解してください。たった一度だけ、立ち止まってつながるのではありません。立ち止まり続け、つながり続け、あなた自身の心への旅をさらに続けるのです。私たちが話しているつながりとは、決して静的なものではありません。それは動き、脈動し、無限の変化とニュアンスに富んでいます。それ自体が完全な領域です。

そしてこの領域——それは月と地球の間の宇宙の広がりのようなのです。ここには、「私のもの」とか「あなたのもの」はありません。所属はあっても所有はなく、無条件の愛があります。責務、そして規律はありますが、強制された義務はありません。このつながりの空間の中で、与えることは、海の潮が上向きに引き、それがいっぱいになってあふれ出るのと同じように自然に起こります。そして受け取ることも、ちょうど本能のようなものです——海岸に空間を作る優しい引き潮のように。

今年、グループルニマーの月は 7 月 27 日に満月を迎えます。その日は次の皆既月食の日でもあります。21 世紀で最も長い 1 時間 43 分もの長さの月食になり、インド、アジア全域、中東、アフリカ、ヨーロッパ、南アメリカで見ることができます。

月食とグループルニマー、それは魅力的なイベントの共演です。一つには、それは極めて吉兆な時間であり、精神修行にとりわけ適した時であるのは確かです。私はまた、この天文学上の現象から、そして、たとえ外側に向いた感覚では常には知覚しなくても、月はそこに、まさにそこに、その栄光の中に輝いているという考えから得る、何らかの象徴的な意味があると考えられるのも好きです。

この神聖な日と月を最大限に活用し、ふさわしいやり方でグループルニマーを祝う方法はたくさんあります。私たちはもちろん、「立ち止まり、つながる」ことができます。そして再び立ち止まってはつながり、その後も何度もそうします。そして、ダクシナーをささげることができます。古代から続いてきたダクシナーは、現在もグループルニマーの伝統的な修行です。

私たちがダクシナーを実践する機会を持っているということは、グルの慈愛について多くを語っています。考えてみれば、グルへの感謝の量を測ったり、受け取り続けているものと同等のもの、あるいは同等にはほんのわずかでも近いものを返すのは、実際は不可能です。しかし、ダクシナーをささげることを通して、あなたは「何か」をする能力があります。あなたの感謝を表現するための具体的な手段があります。

そして、ダクシナーをささげる時、あなた自身を与え、あなたのささげものをグルの足元に置く時、ある種の錬金術が起こります。最初はまったく気づかないかもしれません。しかし時と共に、そして与えるという筋力を鍛え続けるうちに、それが見えてきます。それを感じます。あなたはその輪郭を認識し、そのしっかりした鼓動の中にそっと入り、それと一つになります。それは、

与えることと受け取ることの循環です。それは、動的なつながり、あなた自身の心の中の宇宙の相互作用です。

グループルニマーを祝ってダクシナーをささげることについての、スワーム・イーシュワラーナンダの美しい招待状を読むことをお勧めします。それはこのシッダ・ヨーガの道のウェブサイトで見えます。

ウェブサイトでは、あなたがグループルニマーを祝うためのその他さまざまな方法も7月を通して提供しています。例えば、グルと弟子の関係をさらに説明する論説があります。グループルニマーに関する物語——アミール・クスローと彼のグル、ニザームッディーンの古典的な物語や、サッテヤカーマ・ジャーバーラの『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』からの物語があります。また、グループルニマーの当日には、あるシッダ・ヨーガの生徒の話を読み、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの上に懸かる満月のダルシャンをビデオを通して持つことができます。そしてこれらすべてに加えて、グルマーイが今年の誕生日に与えた美徳について、より深く探究することもできます。カルマンヤターについての解説<sup>1</sup>を読むことができます。

15世紀のインドのヴァーラーナシーの偉大な詩聖カビールは、かつてバジャン<sup>2</sup>にこのように書きました。

時の始まりから終わりまで、あなたと私の間にはつながりがある。この愛の中で、  
一体どのような距離、どのような決裂があり得るだろうか<sup>3</sup>。

これらはグループルニマーの月に入るに当たって、私たちが携えていくべき深遠な言葉です。結局のところ、つながりとは何を意味しているのでしょうか。私たちが触れようとしている体験、

---

<sup>1</sup> [LINK to commentary on karmanyata](#)

<sup>2</sup> [LINK to bhajan in online glossary](#)

<sup>3</sup> English rendering © 2018 SYDA Foundation.

私たちとグルとの絆の中に流れ、それを断ち切ることのできないものとしている力とは何でしょうか。ラガン、カビール・サーヒブは言います——愛。そしてこれは、海の底に沿ってゆっくりと水をかき回すように、私たちの魂の奥深くでかき立てられる愛です。心臓が胸から飛び出るしかないかのように感じる瞬間に認識できる、切望で透かし細工を施された、そのような愛。なぜなら、私たちの中の何かが知っているからです。私たちがその一部である大いなる心、永遠へと飛び出る月と星々の広がりがあることを。

心を込めて

イーシャ・サーデサイ



© 2018 SYDA Foundation®. 著作権所有。